

令和7年度高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業
地域支え合い講座【関係職員編】実施報告（HP版）

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を継続できるように支援するため、生活支援体制整備事業に携わる市町村・地域包括支援センター・生活支援コーディネーター等の関係職員を対象に、高齢社会の現状や高齢者の生きがいづくりや支え合い活動等の必要性について学び、理解を進める入門講座を開催！

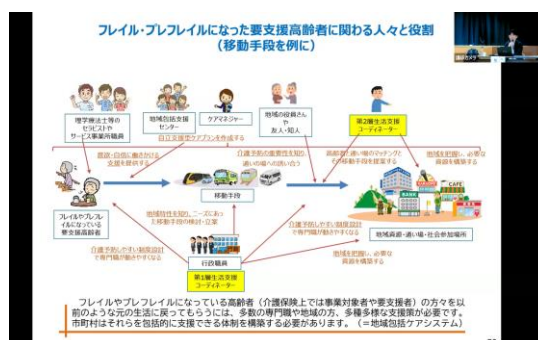
講演1では(株)日本能率協会総合研究所福祉・医療・労働政策研究部主幹研究員の服部真治氏より「生活支援体制整備事業を効果的に進め夢のある地域に」と題し、人生100年時代となり伸びる老後に対して、フレイルになっても安心な支え合いの地域づくりが求められていること、そのために進められている総合事業や生活支援体制整備事業のポイントや効果的に事業を進めるための必要なポイント等を解説いただきました。講演2では山形大学 Well-Being 研究所行動科学部門助教の清野諭氏より「レッツ・フレイル予防～運動・栄養・社会参加～」と題し、フレイルのメカニズムと予防のための三つの柱や、既存の活動内容にちょい足しするとよい内容、取り入れやすい予防プログラム・事例等を紹介いただきました。

日時：5月22日（木）13時～16時
会場：遊学館（山形市）・オンライン Zoom
参加：84名（うちオンライン56名）

***** 参加者VOICE *****

- ・制度改正のポイント、おさえておく点を学ぶことができて良かった。
 - ・「本人の力を引き出す」という言葉を念頭に、今後事業に携わってきたい。
 - ・具体的なデータに基づく内容が分かりやすく参考になりました。仕事の目的も確認できました！
 - ・本人の力を引き出す、選択肢を増やす、そのためにあらゆる人等と取り組んでいかなければならないと改めて感じました。
 - ・“ちょい足し”なら無理なくできそうなので、地域の通いの場でもお伝えしたい。
 - ・実際に高齢者と関わる中で、根拠を持った対応・方法につながる学びを得ることができました。
 - ・現在の社会状況からフレイル予防の具体的な方法まで知ることができ、今後に活かしたい。
 - ・少子高齢化による支え手不足を解消するためにも、本人の力を引き出すことが有効である事は大きな気づきでした。様々なフレイルに対し、しっかり介入し健康でいられる期間を長くしていくこと、元気なうちから専門職と関わり意識を高めていく必要があること。総合事業の活用の仕方についても認識を改めました。
- ※この事業は県の委託を受け実施しました。

A wide-angle photograph of a large lecture hall. Numerous students are seated at long, light-colored wooden tables arranged in rows, facing the front of the room. They are engaged in a lecture or presentation. At the front, a large projection screen displays a slide with text and a diagram. The room features a high ceiling with recessed lighting and a dark wood paneling on the walls. The atmosphere appears to be a formal academic setting.



※この事業は県の委託を受け実施しました。